

農業経営基盤強化促進法第18条第1項の規定に基づき、公表します。

鹿島市長 松尾 勝利

市町村名(市町村コード)	鹿島市(412074)
地域名 (地域内農業集落名)	北鹿島地区(集落名:中村、森、土井丸、井手、三部、新籠、常広、組方)
協議の結果を取りまとめた年月日	2024/12/2(第1回),2025/1/8(第2回)

注1:「地域名」欄には、協議の場が設けられた区域を記載し、農林業センサスの農業集落名を記載してください。

注2:「協議の結果を取りまとめた年月日」欄には、取りまとめが行われた協議の回数を記載してください。

1 地域における農業の将来の在り方

(1) 地域農業の現状及び課題

北鹿島地域の農家戸数は2010年の142戸に対し、2020年は111戸と減少している。年齢別でも60歳以上が全体の71%を占めており(2010、2015、2020農林業センサスより)、農業者の減少と高齢化、遊休農地の増加が課題となっている。今後の北鹿島地域の農業の継続、地域の活性化を進めるためには、分散する担い手の農地を集約化するとともに、将来の地域農業の担い手を確保することが課題であり、そのためには、新規就農者を確保・育成しつつ、担い手への効率的な農地の集約化、農地集約のための団地化や園芸団地などの基盤整備を行う必要がある。また老朽化している幹線水路や排水機場の適正な維持、農業者の高齢化による労働力不足を補うためのスマート農業化、集落営農組織の法人化や企業の農業参入などを進めて地域の農業を維持していく必要がある。

【北鹿島地域の基礎的データ】(2020農林業センサスより)

総農家戸数 : 111戸

農業従事者数: 223人(自営農業に従事した世帯員数:うち50歳代以下64人)、団体経営体(集落法人等7組織)

主な作物 : 水稲、小麦、大豆、たまねぎ、いちご、アスパラ、トマト、ぶどう、レンコン、花き等

(話し合いでの意見など)

【1班】

- ・後継者がいない。米・麦・大豆で稼げなくなっているため、担い手不足になっている。
- ・農地を引き受けてくれる人がいない。
- ・施設園芸の方が稼げるため、米麦を作らない。面積を増やすのに伴い、経費も増える。
- ・カントリーの運営について、話し合いをしていかなければいけない。
- ・2~3年後には、放棄地が増えていく。

【2班】

- ・農地の基盤整備を行った際に排水対策ができていないところとできていないところがある。集約等を進めていく場合、排水対策ができていないところは借りて耕作したくないといった人が出てきて集約が進まないのではないかと。
- ・子も孫も後継者として農業を行っているが、これからの時代施設園芸でしかやっていけないため、米麦大豆は作らないと言っている。後継者がいてもそのような感じのため今後どのように維持していくかが課題である。
- ・先人たちの知恵を引き継いでいない。
- ・収穫物を農協にプールしていると採算が取れず今後やっていけなくなる。カントリーを自分たちで運営・販売までして6次産業化を目指すことで生き残っていくことができるのではないかと。
- ・温暖化で米の収量も少ない。
- ・計画のみ立てても役に立たないため、実際にどうするかを今後本音で話していく必要がある。
- ・WCSの管理があまりされていない圃場の後に主食用米の作付けをするのは雑草が多く難しい。一度荒らしてしまうとしばらくの間作付けが難しくなる。WCSの圃場の周りに作付けしているが草や虫などの影響があり管理が大変。
- ・5年水張ルールの政策に困っている。産地交付金等の対象外になってしまうと耕作放棄地が増えていってしまう。
- ・今後農業者だけでは地域の維持管理ができなくなってくるため、非農家も一緒に水路管理等をしてもらわないといけない。

【3班】

- ・カントリーが老朽化しており建て直しが必要だが、北鹿島単独では出来ない。その後の維持・市外の方の利用の推進など、課題が多くある。

(2) 地域における農業の将来の在り方

- ・米麦大豆を主要作物としつつ、園芸作物の導入により農業所得の向上を図る。
- ・水源の確保が厳しい水田では畑地化を行い、収益性の高い施設園芸作物を生産し経営の安定を図る。
- ・優良な農地については将来の担い手へ集積・集約化を図る。
- ・幹線水路は適正に維持補修を行い、大雨時の排水対策については関係機関と協議を継続し流量調整などを行いながら治水対策に努める。
- ・ドローンなどによるスマート農業の導入を進め、効率的な作業体系を構築する。
- ・企業や農業法人の誘致、集落営農組織の法人化により効率的な農業運営と農地の集積・集約を図る。

(話し合いでの意見など)

【1班】

- ・井手ファームだけでなく、北鹿島ファームにし、法人化する。
- ・子供や孫に緑の環境を残すために、荒らさないことが大切。
- ・米麦を作るエリア、施設園芸のエリアなどエリア分けをすることが大切。
- ・JA・市・農業者一体となって、協力体制を作っていく。北鹿島地区全体で担い手確保の話をすべき。

【2班】

- ・農業研修生に農業のやり方を教えて農業をしてもらったり、ドローンを導入することも一つの手ではないか。
- ・北鹿島でしか取れない農産物を何か一つでもブランド化して販売していくことで外から若者が参入し、鹿島に住んでもらうことで空き家の解消にもつながるのではないかと。そういったきちんとした人がくれば機械をどれだけ貸してもよい。
- ・今後は米麦大豆だけではなく、園芸も取り入れた経営を考えていく必要がある。
- ・機械をすべて購入して経営していくのは難しい、補助要件も厳しく当てはまらない場合が多いため、北鹿島全体としてどうしていくかを考える必要がある。
- ・排水対策ができていない田は裏作を作ることが難しいため、排水対策と経営をどのように進めていくかが大切である。
- ・10年後などの将来に向けて1つのビジョンを作って話をすることが必要。ビジョンがあればそこに向けて1年1年何をするか考えて行動できるようになる。

【3班】

- ・米麦は機械がある前提で、収益性を担保するには最低でも10haもの面積が必要であり、魅力が少ないのが課題。米麦大豆でも儲かるような政策が必要。
- ・入作も積極的に受け入れていくべき。
- ・担い手は個人では難しいため法人も考えていくべき。できれば区内で法人化を行い、地域の農業者が給料としてもらうような仕組みづくりを出来ないか。

2 農業上の利用が行われる農用地等の区域

(1) 地域の概要

区域内の農用地等面積	465 ha
うち農業上の利用が行われる農用地等の区域の農用地等面積	463 ha
(うち保全・管理等が行われる区域の農用地等面積)【任意記載事項】	2 ha

(2) 農業上の利用が行われる農用地等の区域の考え方(範囲は、別添地図のとおり)

農振農用地区域内の農地及びその周辺の農地を農業上の利用が行われる区域とし、その区域と住宅地又は林地との間にある農地や遊休農地化が進んでいる区域の農地については保全・管理を行う区域とする。

(話し合いでの意見など)

【1班】

- ・排水が利かないところがあり、冠水があるところは作りにくい。整っているいい農地でも作る人がいなければ意味がない。

注: 区域内の農用地等面積は、農業委員会の農地台帳等の面積に基づき記載してください。

3 農業の将来の在り方に向けた農用地の効率的かつ総合的な利用を図るために必要な事項

(1) 農用地の集積、集約化の方針

- ・農地中間管理機構を活用して、認定農業者や新規就農者、法人、地域の担い手を中心に団地面積の拡大を進めるとともに、担い手への農地集積を進める。
- ・高齢化等により離農する農業者から担い手への集積がスムーズに図られるよう地域で話し合いを実施する。
- ・農業の作型、農作物の品種、ブランド、作物の生育にあった集積・集約を進める。
- ・担い手による集積や集約が進まない地域においては農地の狭地倒しによる農作業の効率化や、集落営農の法人化など営農組織を設立し共同体による農地の団地化を図る。

(話し合いでの意見など)

【1班】

- ・井手と三部については、集約できている。
- ・住宅地周辺の農地に関しては、機械類が入らないなど効率が悪いいため、農用地から外す。
- ・施設園芸で団地化・米麦などで団地化など区別する。
- ・カントリーを利用し、運営を行う。

【2班】

- ・各地区組合ができており、その中でも人がおらず困っている。

【3班】

- ・10年後の耕作者の決定は、集落到地図を持ち帰って話さなければ難しいのではないかと。
- ・地図上で平面に見えても、現場では高低差があったり、圃場ごとに排水等の条件が違ったりして集約が思うように進まない。
- ・80歳で離農と仮定して、10年後に離農される面積が多くある。そういった農地を担い手に集積していくべき。

(2) 農地中間管理機構の活用方針

- ・地域の農地の貸し借りは農地中間管理機構を活用して地域の担い手や法人、認定農業者、新規就農者を中心に集積・集約の面積拡大を図る。
- ・中間管理事業の手続き簡素化やデジタル化など効率の良い手続きについて要望や提言も行いながら、積極的に中間管理機構を活用していく。

(話し合いでの意見など)

【1班】

- ・ファームとまではいかないが、北鹿島地区全体で組織化し、中間管理事業へ集約を図っていく。
- ・現在農地の貸し借りについて、最適化推進委員ではなく、生産組合が中心になって、利用権設定などを行っている。
- ・今後は農業委員会・JA・生産組合一体となって協力体制を築いていくべき。

【2班】

- ・上記で認定農業者、新規就農者を中心にと記載があるが、実際認定農業者、新規就農者が営農していけない状況にある。絵に描いた餅で計画しても継続していけない。

【3班】

- ・離農される方の農地を公社で引き受け、担い手に繋げていく取り組みをお願いしたい。

(3) 基盤整備事業への取組方針

- ・生産効率の向上や農地の集積集約を図るため、地域で継続的に施設の問題点や課題などを話し合いながら、用排水路・農道の整備、農地の大区画化などに取り組む。
- ・農業の生産効率の向上等を図るため、農業者の要望や費用を踏まえ、行政など関係機関への支援も要望しながら基盤整備に取り組む。
- ・大雨時の排水対策として排水機場の更新整備を計画的に行い、農地や市街地への水害を未然に防ぐ。
- ・補助事業なども活用し、施設園芸に取り組む担い手の生産基盤を確保するための園芸団地を整備する。

(話し合いでの意見など)

【1班】

- ・圃場整備をしても高低差があるため、なかなか難しい。
- ・カントリーを同じ場所に再整備。
- ・排水機場を新たに作り、排水対策を行っていくべき。

【2班】

- ・排水対策について、水はけが悪いところを中心に要望はしているが、採択要件等が厳しく採択されていない状況。

【3班】

- ・北鹿島は農地・水の交付金を効率的に利用し、水路等の維持管理が出来ているので、継続していきたい。

(4) 多様な経営体の確保・育成の取組方針

- ・地域の担い手に農地を集積・集約し、地域農業を守りながら若手のリーダー育成を進める。
- ・既存の農地多面保全組織など地域で協力しながら農地を守っていく。
- ・労働力の確保や機械の共同利用、作業効率化のため、スマート農業の導入、集落営農組合の法人化を図る。
- ・企業や農業法人の参入、複合経営や兼業農家など持続可能な農業経営で地域農業を維持していく。

(話し合いでの意見など)

【1班】

- ・飼料用作物を栽培していく。
- ・企業参入により企業が面積拡大をしていくと思うが、地元で管理できるように維持していきたい。

【2班】

- ・後継者がいない不安がある。外部に募集して農業をしたい方に来てもらい、今の農業の先輩方がいる内に部落全体で教えていく必要がある。
- ・施設園芸においては一人では難しく、家族で営農していく必要がある。
- ・専業農家ではやっていけなかった(収入面)ため、兼業農家になった。
- ・研修生を取り入れ、免許なども取ってもらい、施設関係の管理についても教え、後継者として育てる。

【3班】

- ・担い手である認定農業者の水準まで収益を上げるのは一筋縄ではいかない。
- ・地元の方で農地を守っていくのが理想だが、放棄地になるくらいなら入作も受け入れる必要がある。
- ・サラリーマンを辞められた方の就農について、機械などの参入障壁がありなかなか入ってこない。
- ・企業参入により農地は守れるが、農地に付随する水路の維持管理なども行っていく必要があるため、できれば地元で担い手を作っていくきたい。
- ・北鹿島は条件的に優れているので、外部からのコンサルも取り入れ、経営のアドバイスなどを受けるのはどうか。

(5) 農業協同組合等の農業支援サービス事業者等への農作業委託の活用方針

- ・共同省略化機械の導入や作業の受託、共同作業の実施について地域内や集落営農組織内で検討する。

(話し合いでの意見など)

【1班】

- ・カントリーを中心に、北鹿島地区全体で話し合いを行っていくべきである。

【2班】

- ・農協の職員が休日に働きに来る制度があるが、草払いもできず、ほんの手伝い程度の方が多い。
- ・農協の機械リースについて、個人で買えるような金額ではないものを中心にもっと種類を増やしてほしい。

以下任意記載事項(地域の実情に応じて、必要な事項を選択し、取組方針を記載してください)

<input checked="" type="checkbox"/> ①鳥獣被害防止対策	<input type="checkbox"/> ②有機・減農薬・減肥料	<input type="checkbox"/> ③スマート農業	<input type="checkbox"/> ④輸出	<input type="checkbox"/> ⑤果樹等
<input type="checkbox"/> ⑥燃料・資源作物等	<input type="checkbox"/> ⑦保全・管理等	<input type="checkbox"/> ⑧農業用施設	<input type="checkbox"/> ⑨その他	

【選択した上記の取組方針】

- ①イノシシやカモ等の被害が拡大しないよう進入防止対策や追い払い、効率的な捕獲など、被害防止の環境作りを地域ぐるみで行う。

(話し合いでの意見など)

【1班】

- ・三部集落でカモ対策の実証実験を行う予定となっている。情報共有はつないでいきたい。

【2班】

- ・江北のように、テープやロケット花火を無料配布するなどの補助が鹿島でも必要ではないか。
- ・カモの追い払いをドローンでもやってみたが、ずっと飛ばし続けることは難しく、すぐカモが戻ってくる。
- ・熊本などの他干拓地区は後継者などの問題をどうしているのか視察研修に行くのもいいのではないか。
- ・話し合いにはもっと若い方(後継者)にも参加してもらった方がいいと思うが、後継者が周りから期待されすぎても重荷になってしまうし、全世代で集まってもなかなか発言できないため、若者のみで今後の地域の農業について話し合いを行った方がいいのでは。

【3班】

- ・カモ対策として、地域によっては散歩中の方に爆竹を渡し、鳴らしてもらうという対策を講じている。
- ・森地区ではドローンが2台、乗管が3台導入されており、効率的な共同利用が出来ているので、継続していくためにオペレーターの確保に努める。